

島原鉄道訪問記

大阪切手会 山本誠之

大阪切手会の山本氏が書かれた鉄郵訪問収印記のうち、島原鉄道に関する号の記事の転載を許可されたので本号に掲載します。貴重な記録です。ありがとうございました。(昭和58年12月記)

好評につき、前号に続いての鉄郵訪問収印記です。

前回の近江鉄道(滋賀県)に続き、今回は島原鉄道(長崎県)の私鉄鉄郵訪問記となります。収印記を拝読すると、所持している満月印等何気ない関連アイテムも、深みを感じます。

貴重な当時の取扱の様子の写真も含め、前号に続き、ご多忙の中本記事の掲載許可、図版協力いただいた投稿者様に感謝申し上げます。前回分も含め、順次当会ブログにも掲載予定、カラー図版をお楽しみ頂けます。(山本)

島原鉄道訪問記

来月、昭和59年1月末日をもって、鉄郵印が廃止される為(護送便はしばらく残るが、車中継送区分を行う取扱便が廃止され、自動車便に置き代わる為、郵便物に押印される鉄郵印は姿を消す。)、最後の機会でもあり、12/3(土)~、2泊3日で九州へ収印旅行にでかける事にした。12/5(月)は、1日有休をとる事にするが、師走で仕事多忙の為、休暇取得は1日が精一杯。

12/4(日)、この日のメインは島原鉄道(諫早加津佐間)訪問である。

朝、佐世保駅前のビジネスホテルを出発し、まず、佐世保駅構内の、熊本鉄道郵便局佐世保分局に立ち寄る。駐在印と護送印を記念押印依頼し、快く応じていただき、この日は順調にスタート。



【これまで、ほとんど見かける事がなかった珍しい便の護送印、駐在印。(佐世保分局にて)】

諫早駅から島原へ延びる島原鉄道は、この鉄

道郵便輸送の末期、全国で郵便列車が運行する私鉄2路線のうち、滋賀県の近江鉄道と並んで、もうひとつの路線である。

思えば、私の地元の近畿地方には、つい12年前まで、身近にもう一つ、郵便車の走る私鉄路線があった。南海電鉄(日付印は大阪和歌山間。難波駅 和歌山市駅間)であるが、意外と知られていない。現在、郵便車両は姿を消したが、沿線の大阪鉄道郵便局和歌山分局はまだ存在する。この局も来月一杯で閉局となる為、年が明けて早々に訪問しようと思う。

ホームで色々な郵便車両に遭遇しながら、佐世保駅を出発し、お昼頃、諫早駅に到着。ほどなく、13時前、島原方面より上り110普通列車(諫早加津佐間上一便)が到着。2両編成で、後部にはお目当ての郵便車両「キハユ17-02」が連結されている。

島原鉄道は、私鉄といっても、国鉄「諫早駅」の構内に隣接し、見た目は何ら国鉄と変わらず、近江鉄道のようなユニークさはない。

以前は、レールバスのような郵便車両や客車郵便車両が運行していた時代もある。

【諫早駅で出発を待つ、島原鉄道の郵便車両「キハユ17-02」(諫早加津佐間下二便)」。ホームには島原温泉という白い縦看板が見える】



今の郵便車両は、国鉄から移籍の「キハ17」を昭和56年に改造したもので、運転席側前半分が郵便室、後半分が客室になっている。

島原鉄道は、つい数年前まで、国鉄長崎本線への直通列車(乗入れ)も運行されていた。

列車到着後、島原方面からの大量の郵袋が降ろされ、すぐ、折り返し13:13発 115普通列車（諫早加津佐間下二便）として出発する為、郵袋積込作業も慌ただしい。

【短時間での郵袋の積み降ろし作業で慌ただしいホーム。車両扉の左側に縦書きの朱書きで「郵便」の文字が見える】



郵便室内には、熊本鉄道郵便局の乗務員4名が乗務し、郵袋の整理に追われていた。タイミングを見計らって、郵便物の差立を依頼する。

本便は、1日に上下2便ずつ、単純に往復するだけ故、車内で使用されている日付印（A欄）は1種類だけで、バラエティはない。

【下：郵便車内の押印台で、依頼した郵便物に日付印を押印する、熊本鉄道郵便局の乗務員の方。ホーム側より郵便車両内の風景。狭い郵便室内は、木製の区分棚や積み込まれた郵袋が所狭しと並んでいる。写真左奥扉の向こうは客室】



【左：諫早加津佐間下二便の日付印】

未納不足印は、「手数料 円を含む」の文字入りで、金額部分「30」は手書きである



が、これは、手数料20円時代のものの金額削りと思われる。熊本鉄道郵便局では、大半、この数字削りのタイプが使用されている。ほかには、手数料表示がない「熊本鉄道郵便局」「熊本鉄道郵便局」等、局名だけのシンプルなタイプも一部の便で使用。

【下：諫早加津佐間下二便で使用の未納不足印、抹消印】



抹消印は、ほぼ大半が、同じパターンであるが、中には楷書体や、わずかに大きいサイズもあり、微妙に異なるタイプが各便で使用されている。

島原鉄道の郵便車両を見送ったあと、再び、鳥栖へ戻り、予定通り鹿児島本線で熊本、鹿児島へ向かう事にする。

【表紙のシートについて】

今年も昨年に引き続き、切手趣味への招待という小型シートが発行された。昨年は500円切手2枚だったが、今年は3枚になり、同じ枚数販売しても昨年比で一挙に1.5倍の売り上げとなる計算だ。このシリーズは来年度も発行が予定されているらしい。

事前に地元島原局で販売情報を確認すると、1枚だけ配給があるという。昨年は島原局には配給0でネットで買ってくれとの返事だった。今年も、ダメもとで「予約できますか？」と訊いたところ「できる」とのこと。でも開局の朝9時に来ないと確約できないというので悩んだ。3月13日は水曜日で、この曜日のみ1・2校時授業の日。そこで妻に頼んで行ってもらうことにした。窓口販売分は発売された証拠となる初日印を欧文印で押してもらおうように妻に伝えた。欧文印1印が少し傾いたと妻。意外に細かい。

未使用はネットの切手ショップで買えると思っていたら、4校時の授業終了まで校務多忙のためすっかり切手のことなど忘れていて、帰宅時の車の中で思い出し、路肩に停めてネットにアクセスしたところ、当然のごとく売り切れだった。13時すぎだった。ということで今年も未使用は一枚も買えず。昨年はネットの切手ショップで9時の発売開始時間と同時に注文したらどんどん買えたので、支部例会で会員には何枚でも顔面販売できたのは周知のとおり。さすがに9時になったからといって、授業を中断して抜け出すわけにもいかない。というか、学校に行くと仕事モードになり、教室に行き授業しているとすっかり忘れていたのだ。